



令和8年度
学校だより
10月号

Shin
OGURA

新しい自分をつくる
未来をつくる

令和8年9月29日

大きな行事を越えて、ひとまわり大きく

■ 自然の脅威と、日常のありがたさ

このところ、全国各地で激しい豪雨による被害が相次ぎ、ニュースを目にするたびに胸が痛みます。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、本校におきましても、子どもたちの安全を第一に考えた防災対策や迅速な判断に、引き続き万全を期してまいります。こうした自然の猛威に触れるたび、子どもたちが毎日無事に学校へ通い、友達と笑顔で過ごせる「当たり前の日常」がいかに尊く、ありがたいものであるかを痛感させられます。この平穏な日々感謝しつつ、日々の学びや運動会に向けた取り組みを一日一日大切に進めてまいりたいと思います。

■ 「正解のない時代」を生きる子どもたちへ — 三木先生の講演会を振り返って

9月26日（土）に慶應義塾大学の三木則尚教授をお招きし、「これからの教育について」をテーマに学校運営協議会主催の特別講演会を開催いたしました。当日は多くの保護者・地域の皆様にご参加いただき、心より感謝申し上げます。参加された皆様からいただいたアンケートには、大人自身の固定観念を見つめ直し、我が子との関わり方を深く思索された言葉があふれていました。

『自分が育ってきた「みんなと同じ」常識にとらわれるのではなく、学んだ先に自分で考えて行動できる力を育てることがこれからの時代に不可欠だと痛感しました』『自分自身がマジョリティの道で育ったため、無意識に娘にも同じ道を求めようとしていたことにハッとさせられました。親の固定観念ではなく、「子ども自身がどう思うか・どうしたいか」を自分で考えられる環境を整えていきたいです』『これまでは多様性という言葉をうまく捉えきれずにいましたが、色々な人が集まるからこそ新しいものが生まれるのだと学びました。娘の自己肯定感が上がるような関わり方を改めて考えていきます』

三木先生のお話を通じ、「正解のない時代」を生きる子どもたちに必要なのは、型にはめることなく、自分らしく思考し挑戦できる安心感ののだと、私たち大人も大きな学びを得る機会となりました。

■ 「選択」が育む、本当の挑戦 — イソップ童話「北風と太陽」に寄せて

この三木先生のお話とも深く重なるのが、10月24日（土）に開催する本校の運動会の取り組みです。皆さまはイソップ童話の「北風と太陽」のお話をご存じでしょうか。旅人の上着を脱がせようと、力任せに冷たい風を吹きつける北風に対し、太陽はぽかぽかと温かい光を注ぎます。無理やり脱がされそうになるほど上着を強く抱きしめた旅人が、自ら上着を脱いだのは、太陽の温もりを感じたときでした。

本校の運動会では、昨年度に引き続き「全力走」と「学年種目」から参加種目を自ら選べる仕組みを取り入れていきます。これに対して、「苦手なことから逃げる免罪符になるのではないか」「嫌なことでもがんばってやるのが成長ではないか」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、北風のように大人が外側から力や命令で強制した挑戦は、かえって子どもを頑なにし、力にはなりません。近年の教育学や心理学の研究結果でも、「強制された挑戦」よりも「自ら選択した挑戦」の方が、学習意欲や自己効力感を大きく高めることが実証されています。

子どもに必要なのは、「嫌ならパスしてもいい（自分で決めていい）」という太陽のような安心感（心理的安全性）です。いつでも安全地帯に戻れる安心感があるからこそ、子どもは恐怖心を乗り越え、「やってみようかな」と自ら一歩を踏み出すことができます。パスという選択肢があるからこそ、自分の意思で選んだ挑戦が本当の力になるのです。また、どの学年でも取り組む表現（ダンス）においては、友達と動きを合わせたり声を掛け合ったりしながら、みんなで一つのものを創り上げる「協働性」を育てることをねらっています。

自分で選び、友達と支え合いながらやり遂げるプロセスこそが、子どもたちのしなやかな自律へと繋がります。当日は、順位や結果だけでなく、一人ひとりが自ら選んだ挑戦の姿ややり遂げたプロセスに、温かい拍手を送っていただければ幸いです。